

鳥海山 九十九島 象潟海岸と芭蕉も詠った美しい景観を持つ象潟町。奥の細道行脚30年記念のイベントとして立ち上げた「秋田トライアスロン芭蕉レイス象潟大会」は、多くの町民ボランティアに支えられ、トライアスリートが心待ちにする大会に成長しました。

## 町民ボランティアが支える熱き戦い「トライアスロン芭蕉レイス」(象潟町)

その美しさに芭蕉も  
詠った象潟の景観

島となり、昭和9年には象潟として国の天然記念物に指定されております。

芭蕉行脚300年記念  
にトライアスロン大会

約2千400年前、霊峰鳥海山の噴火による土石流により出来た大地が日本海の荒波に洗われ、一面遠浅の「九十九島」と称される島々が形成されました。その美しさは松島と並ぶ奥羽の二大景勝地と称賛され、俳人松尾芭蕉もその素晴らしい景観に「象潟や雨に西施がねぶの花」と3百有余年前に詠っています。

2000年程前の文化元年(1804年)、鳥海山の噴火と大地震により地盤が隆起し、陸に点在する現在の「九十九

今から19年前の昭和62年

俳人松尾芭蕉が奥の細道で東北地方を行脚して300年となる前年には、芭蕉所縁の地である東北の各県自治体では、300年を記念するイベントなどがあちこちで企画され前年祭等が行われておりました。そんな各地の盛り上がり町の商工会青年部のメンバーが、象潟町でも芭蕉の句にも詠われた景勝地として何か素晴らしい後世に残せるイベントを開催できないか、30代前半の四人のメンバーが集まり、酒を交えての議論が始まりました。

メンバーのひとり、町から水泳の指導を依頼されるほどの泳ぎの達人で、予てから



鳥海山をバックにトライアスリート達がスタート(象潟海水浴場)



猛暑の中給水のサポートを受ける



山形県との県境にある三崎山から、その海向こうにある岩場までの往復15キロの遠泳大会の開催を提案。また、自転車屋を営むメンバーは、鳥海山のブルーラインを自転車車で登って降りてくるロードレース大会を主張した。もうひとつは陸上の達人で、マラソン大会等の陸上競技の開催を提案したのでした。

に点在する九十九島、日本海を望めたはずで、行脚3000年を記念してのイベントとして最も適したスポーツであり、トライアスロン大会の実施に向けて取り組むことを決定したのでです。

### 実行委員会を立上げ ボランティア確保に奮闘

その頃町でも芭蕉の行脚300年記念として町の各種団体の代表を募集し、検討会が行われていました。その席上、トライアスロン大会の実施を提案したところ、すんなりとは受け入れてもらえず、商工会青年部のメンバーが説得を重ね、結局若者達の熱意に押し切られる形で開催する運びとなりました。

まず、大会名を「秋田トライアスロン芭蕉レース象潟大会」と命名し、その実行委員会を立上げます。大会運営のノウハウについて隣県である山形県酒田市の「おしんレース」の実行委員会に学びに行ったところ、開口一番「止めた方がいい」と即答され、トライアスロン競技は、選手ひとりに対してボランティアが最低3人必要とな

ることを説かれ、その大変さを知るようになりました。

この「芭蕉レース」は「他のレースとは違って周回コースでなく、鳥海山と九十九島、象潟海岸が望めるよう町をまるとコース設定しています。

そのためボランティア確保が重要で、各町内から有志を募ったり、町内の各団体や企業、スイムの部門では、町漁協青年部等に漁船の手配（現在はゴムボート）をお願いするなど協力を頼みに頭を下げて廻り、ボランティアを確保したのでです。

### ボランティアが支える 夏の一大イベントに成長

昭和63年、8月21日に第1回大会が開催されることになり、出場選手を募集したところ、2カ月前になっても県内外を合わせても、たった十数名しかエントリーしてもらえず、新参大会ゆえの厳しさを味わいますが、この大会の日程の近くで行われるレースの選考で漏れた選手を募集するなどの苦肉の策を講じて選手を集め、開催まで多くの苦難を乗り越え、出場選手121人、ボランティア数358

人の第1回大会が行われ、大成功をおさめたのでした。

以来回を増すことに出場選手、ボランティアの数も増え第4回大会には、募集人数300人に対して800人を超える応募があり、エントリーが500人を超える規模の大会となり、これ以降約2千人のボランティアが支える町民総出の県内はもとより、東北を代表する夏の一大イベントとして、全国の多くのトライアスリートが心待ちにしている大会となったのです。

### トライアスロンの成功が 様々なイベントに波及

ボランティアの内の100人以上は首都圏や関西圏、仙台などから志願してこの大会に参加しています。その中には、実行委員メンバーが民宿として提供した自宅に毎年訪れ、何年来と交流を深めたいと聞きます。

このイベントを契機に地域づくりに参加したいと言う若者が増え始め、トライアスロンの成功から様々なイベントに対応できるボランティア体制が整いました。夏場が旬で象潟の天然「岩がき」が全国

ブランド化の礎となった「きさかた」港の幸まつり」をはじめとする多くのイベント等が誕生し、町が活気活気付き始めました。

### 参加して良かった第1位 参加したい第10位

今から数年前、トライアスロン雑誌のトライアスリートアンケートランキングで、全国130を超える大会がある中で、参加して良かった大会第1位、参加したい大会第10位に輝きました。

町民ボランティアに支えられ今年で18回目を迎える「芭蕉レース」は、7月17日今年も町民とトライアスリートが一丸となって熱く燃える一日がやってきます。



鳥海山・九十九島・象潟海岸と町まるごとのコース設定となる